



音楽の地産地消

自宅と都心との行き来は三鷹駅か武蔵境駅を利用する。今年の梅雨時だったか、夜、武蔵境駅で電車を降りたところ、雨もちょうど止み、自宅に向けて歩き出そうとしたところ、聴こえてきたのがサックスの音。井上陽水の「少年時代」だ。情感たっぷり、かつ渋い音色に引きつけられて、駅前の路上でのサックス演奏に聞き入り、しばし気持ちのいい時空に浸った▼演奏料の代わりにCDを購入した。CDジャケットを見ると、「ストリート サックスプレーヤー 中村健佐(けんすけ)」とあり、小さい頃、武蔵境に住んでおり、親は今も武蔵境に住むとあった。CD代金に沿えて名刺を渡しておいたところ、その後、コンサートの案内等が届くようになった▼その案内で、先週の木曜日に開かれた武蔵境でのコンサートを聴きに出かけた。サックスの演奏も素晴らしかったが、賛助出演としてお父さんの健(たけし)さんが登場。お父さんは二期会の理事長も務められた著名なテノール歌手だそうであるが、すでに八五歳。脳溢血の故か、車椅子に乗ったまま、不自由な手で調子を取りながら童謡四曲を歌われた。勿論、かつての美声ではなく発声も不十分ながら、合間に語る話がウイットに富んでいることも含めて、実に味があり、深く心に沁み込むものがあった▼おそらくは地元の武蔵境でのコンサート故のプログラム。中村さんの小さい時の町の様子等の話、お父さんの歌が終わってすぐに会場から「〇〇さんがきつと喜んでるわよ」の掛け声。演奏者と聴き手の心が通う。音楽も地産地消がいいと心底思った。

(土着菌)